

震災と人びと ～陸羽地震と強首地震～

震災を乗り越えて

仙北郡を震源とする大地震は、江戸時代には起きませんでした。明治・大正期には、大きな被害をもたらした2つの地震が仙北郡一帯を襲いました。

明治29年（1896）8月31日午後5時過ぎ、横手盆地の東縁断層帯（秋田・岩手県境）を震源とするマグニチュード7.2（推定）、震度7相当の大地震が発生、国ではこの地震を「陸羽(りくう)地震」と名付けました。

大正3年（1914）3月15日午前5時頃、マグニチュード7.1（推定）の大地震が西仙北地域一帯を中心に発生した。震源地は、現在も明確ではありませんが、特に被害が大きかった強首(こわくび)村、大沢郷村布又の地名から、「強首地震」「布又地震」と名付けられました。また、布又では山体崩壊による地震湖ができました。

秋田測候所に提出した資料によると、地震の鳴動について「砲声に似たる鳴動あり」と記されています。

最近の研究により、神宮寺付近を震央として分析する方法など、新たな研究が見られます。

同年4月20日には、仙北郡役所から『秋田県大地震 仙北郡大震災写真帳 大正三年三月十五日午前五時』が発行され、その被害の大きさを知ることができます。この写真帳に掲載されている写真は、神宮寺町の細谷誉司が撮影したものです。この原板である貴重なガラス乾板は、現在、大仙市アーカイブズが所蔵しています。



強首地震による池田家被害の様子

池田家所蔵



強首地震の震源地付近（大沢郷円行寺布又）

細谷誉司ガラス乾板



震災復旧工事書類 角間川町 (明治 29 年)

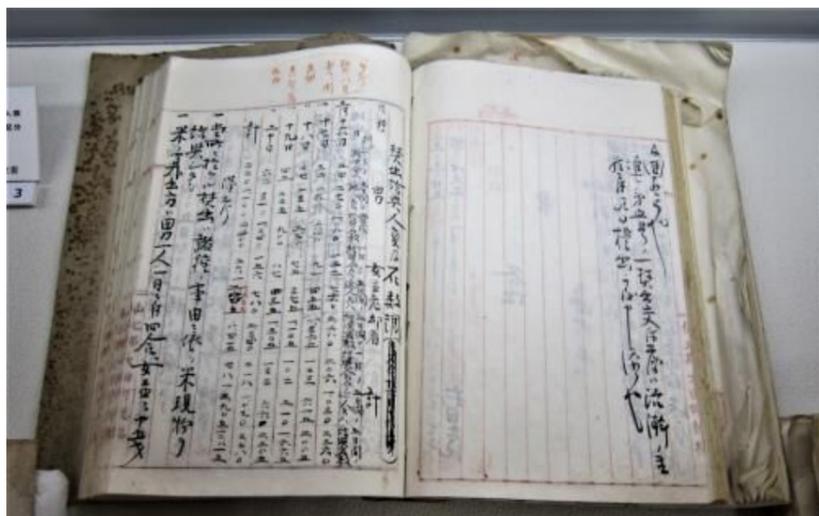
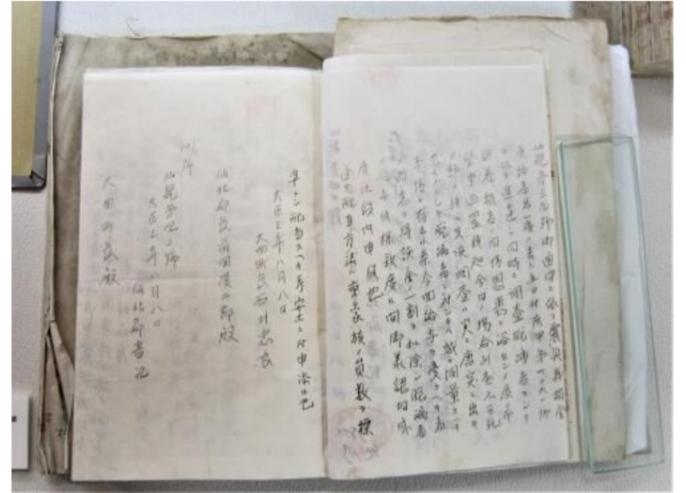
陸羽地震による災害復旧工事の文書。震災による復旧土木工事については、県の補助金で行われた。

(大曲市役所文書)

震災救恤書類 (大正 3 年)

大正 3 年 3 月 15 日に発生した強首地震による被災者への、義援金分配の調査・配当方法などが記されている。

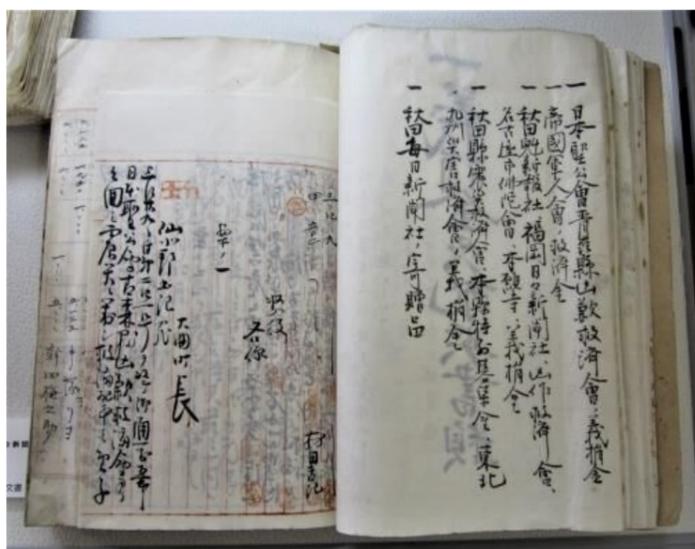
(大曲市役所文書)



震災書類 二冊之内 (大正 3 年)

強首地震で被災した人々への炊出しについて、人数及び石数について調べたもの。そのほか、義援金品の分配などについても記されている。

(大曲市役所文書)



震災書類 二冊之内 (大正 3 年)

強首地震に際して、全国各地からの義援金の詳細についてわかる文書が綴られている。福岡日々新聞社や本願寺からも義援金が送られているのがわかる。

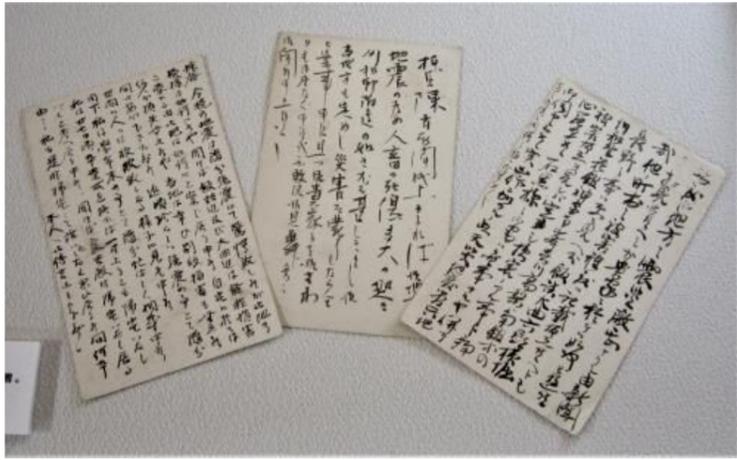
(大曲市役所文書)

震災事務簿 (大正 3 年)

大沢郷村の震災被害の状況が一覧としてまとめられている。

(大沢郷村役場文書)





葉書 3通 (大正3年)

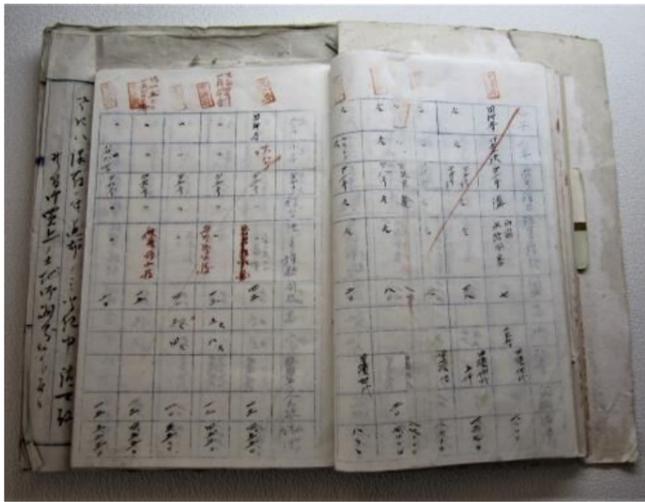
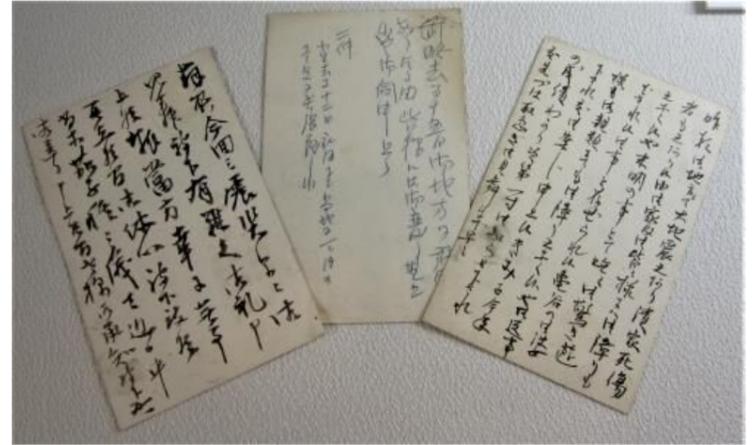
県内や北海道にいる親族からの震災の状況を心配する葉書。

(平瀬家資料)

葉書 3通 (大正3年)

東京や大阪から届いた、震災見舞いの葉書。震災直後には全国に被災の状況が伝わったことがわかる。

(平瀬家資料)



震災補助及以外工事書類 大沢郷村役場 (大正3~4年)

震災で崩れた道路や水路の復旧工事その他の工事書類。この補助事業で布又の地震湖の水を抜くための隧道掘削工事(第3号)を行った。

(大沢郷村役場文書)



震災御下賜金調及震災工事設計書図面 大沢郷村役場 (大正3年)

隧道工事(第3号)の工事の詳細や図面が書かれている。

(大沢郷村役場文書)

ずいどう
地震湖と隧道
布又地区では山体崩壊による地震湖の解決のため隧道が敷設されました。現在でも現地にその隧道を確認することができます。

地震湖 (大沢郷村布又尻)

隧道 (2015年撮影)

第三号
大沢郷布又里道
山行寺宇布大尻(宇)

地震湖の解消のため隧道が計画された。
(「震災御下賜金調及震災工事設計図面」)

たかじ

細谷誉司ガラス乾板資料

神宮寺で写真師として活動した細谷誉司が撮影したガラス乾板の資料群。仙北郡役所から依頼された仙北地震（強首地震）の被害状況をまとめた写真帳の原板や、仙北郡誌編さんに使用された写真のほか、プロマイドなども多数含まれます。

現在、大仙市アーカイブズで整理・デジタル化を進めています。



小山田治右衛門宅背面の惨状（大正3年）

強首の肝煎りなどを務めた小山田家（現在の縦峰苑）の被災状況。甚大な被害であったため邸宅を立て替えた。その邸宅は、現在登録有形文化財に指定されている。

（細谷誉司ガラス乾板資料）



赤十字社秋田支部救護所（強首小学校）（大正3年）

双葉小学校の前身の一つである強首小学校は、赤十字社秋田支部の地震の際に救護所となった。

（細谷誉司ガラス乾板資料）



淀川村字小種新田 佐々木清治宅の惨状（大正3年）

朝早くの地震であったことから、就寝中の多くの家で甚大な被害が生じた。淀川村（現在の協和地域）の佐々木家では震災後に発生した火災により、8名の方が犠牲になった。写真中の立木は、犠牲になった場所と名前を示している。

（細谷誉司ガラス乾板資料）

